

## 会 議 録

### 1 会議名

令和4年度第2回上越市・妙高市在宅医療・介護連携推進協議会

### 2 議題（全て公開）

#### (1) 専門部会の活動報告及び今後の取組について

- ①入退院時連携推進部会
- ②対人援助スキルアップ部会
- ③急変時対応部会
- ④市民啓発部会

#### (2) 第3期（令和5～7年度）の取組方針案について

- ①上越地域が目指す在宅医療・介護連携について
- ②協議会の体制案について

### 3 開催日時

令和5年2月18日（土）午後2時から3時まで

### 4 開催場所

リージョンプラザ上越 会議室

### 5 傍聴人の数

0人

### 6 非公開の理由

なし

### 7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

委員：高橋慶一、渡辺正、揚石義夫、小宮山陽子、藤本智恵、  
森橋恵子、早津敏彦、坪井円香、丸山許江、関原礼敏、  
石田さとみ、佐藤まゆみ（出席12人 欠席2人）

事務局：上越市

小林福祉部長

すこやかなくらし包括支援センター 渡辺所長、岩崎次長

高宮上席社会福祉士長、佐藤保健師長、吉村主任、岩井主任

高齢者支援課 星野課長、高橋作業療法士長

妙高市

福祉介護課 岡田課長、保坂課長補佐、原田主査、竹内保健師

### 8 発言の内容（要旨）

○ 開会

○ 挨拶 小林福祉部長

○ 議事

- (1) 専門部会の活動報告及び今後の取組について

資料1に基づいて説明

- (2) 第3期（令和5～7年度）の取組方針案について

資料2及び資料3に基づいて説明

（意見交換）

早津委員： 対人援助スキルアップ部会で作成した研修パッケージを使い、理学療法士会で在宅サービスに関係する会員を集めて研修会を開催した。20人位の参加が得られた。研修パッケージは動画説明等がわかりやすく、かなりスムーズな研修会が行えた。各職能団体でも研修会等で活用すると、すごく良いと思う。

理学療法士としては、どうしても身体機能評価や目標設定した上での治療戦略という視点になりやすいが、その前の基本として、しっかり対象者の話を聴くことが重要であると、研修参加者で共有できた。この研修パッケージについて、今後も各職能団体での活用を進めていくことが必要だと思うが、一専門職種だけではなく多職種で意見交換できると視野が広がり、より良い支援につながると思う。ただ、多職種を集めるとなると専門の職能団体では難しいので、部会や市としての取組の継続をお願いしたい。

小宮山委員： 入退院時連携推進部会の一員として活動してきた。資料の中に書かれているように、病院の看護師は『退院後の在宅における患者の生活までイメージすることが難しい』ということがある。そのような中、ケアマネジャーとの研修会に病棟看護師と参加し、医療側と在宅側で考え方に違いがあることを改めて感じた。こういった意見交換が行える交流の機会を、今後もぜひ続けてもらいたい。病院としても、できるだけ多くの看護師や病棟師長等が参加できると良いと思っている。

渡辺委員： 歯科医師会は、多職種連携の分野で一番出遅れているように感じる。歯科医師会には在宅歯科医療連携室があり、介護関連の仕事も行っている。そこで、介護支援専門員を対象にした講習会等を開催しているが、参加者が減ってきている状況である。しかし、歯科医師会として入退院時連携推進部会に携わる必要があると考えている。

最近、口腔機能の摂食・嚥下に関し力を入れているので、退院前カンファレンスに参加できればと思うが、口腔内に関するプランを立てるケアマネジャーは少なく、そういった意識自体が低いように感じ

る。したがって、支援者側のスキルアップも含めて、連携していく必要があると思う。歯科医師会で、退院前カンファレンスのような場に参加できる人材はいるので、ぜひ声をかけてほしい。

佐藤委員： 入退院時連携推進部会の取組評価として、地域連携連絡票が有効に活用されているとの話があったが、実際の活用状況など具体的なところを教えてほしい。

佐藤保健師長： 地域連携連絡票の具体的な活用状況について、数値として出せるものはない。しかし、ケアマネジャーとの意見交換を通して、入院の際は病院へ提出し情報共有を図っているとの話を聞いている。また、病院の看護師からも、この地域連携連絡票を基に、本人の意向や在宅の様子を確認している等の話を聞いている。医療側・在宅側ともに活用が広がり定着してきたような様子が伺える。

早津委員： 私は妙高病院に勤めているが、妙高地域での活用状況はほぼ100%の印象がある。入院時は患者・家族ともに混乱しているため、なかなか日常生活に関する情報収集がスムーズにいかないことがある。そのような中、地域連携連絡票を見ることで、その人が自宅でどのような生活をしていたのか、おおよそを知ることができる。このような活用を現場では行っているため、介護支援専門員は作成が大変だと思うが、病院側としてはとてもありがたいと思っている。

揚石委員： 地域連携連絡票については、行政からも、上越地域居宅介護支援事業推進協議会からも、非常に力を入れて普及に努めてもらった。妙高市だけでなく、上越市でも、各種介護サービス事業所への利用申込書として使う等、活用されている。正確な数はわからないが、かなり上越地域全体に広まってきているように思う。

また、介護支援専門員が作成しやすいように、医師会の上越地域在宅医療推進センターで作成している『がんぎネット』というホームページには、介護度別の地域連携連絡票のひな型を用意してある。

続いて、市民啓発部会が作成したリーフレットについて、この場で提案したい。がんぎネットの市民向けのページに、リーフレットを掲載させてほしい。

(資料2及び資料3のとおり承認)

○ その他

会議終了後の15時30分から、コンサートホールで活動報告会を開催する。

○ 閉会

9 問い合わせ先

福祉部 すこやかなくらし包括支援センター（福祉交流プラザ 2階）

TEL： 025-526-5623

E-mail：[sukoyaka@city.joetsu.lg.jp](mailto:sukoyaka@city.joetsu.lg.jp)

10 その他

別添の会議資料も併せてご覧ください。